



取材・文・松田 茜

## 先輩ウロストミーからの 応援メッセージ

よしひろのストーマケア

こちらのサイトの管理者、よしひろさんは1996年8月の日曜日、いつも通りに目覚め、トイレへ行くと血かと思間凍えるほどの鮮やかな血尿が出たそうです。驚きのあまり家族にも告げられず、再び布団に戻りました。その日一日の様子を見ましたが、血尿が治まらないため、翌日、検査に病院を勧め、その結果「右尿管腫瘍」と診断され即日入院となりました。

そして、右腎臓と右尿管の全摘手術を受け、その後膀胱への転移の恐れがあると、抗がん剤治療

を受けたものの、再発し膀胱摘出、ストーマ造設となりました。

これらの経緯はホームページに詳しく語られています。またそのところどころに、よしひろさんの体験を踏まえた「教訓」があります。例えば、「入院は個室か大部屋か」、「手術が恐ろしいという先入観を取り除くには?」とだれもが抱く不安、疑問に先輩として答えています。

尿路ストーマ(ウロストミー)はオストメイトのなかでも情報が少ないため、よしひろさんはこのサイトを立ち上げたのですが、よしひろさんがいちばん伝えたいことは、「不幸にも膀胱を切除し、ストーマの造設を告げられたとき、ひとりで悩まずに、主治医と

納得がいくまで話し合い、そして手術を受け、早急に社会復帰してほしい」ということです。

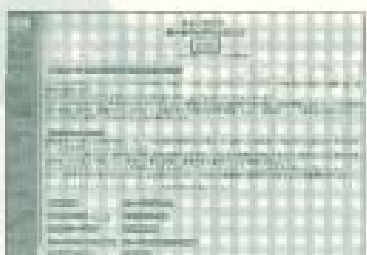
よしひろさん自身、2001年10月にストーマ造設手術を受け、翌年の1月には通常の仕事に復帰し、趣味の競技ダンスの練習も始めたという事です。

手術前と同じ生活を送るのは無理とあきらめ、消極的になって悩んでいる人にこそ、よしひろさんはメッセージを発信しているのでしょう。人を不自由にさせるのは、体ではなく心だと伝えたいのではないのでしょうか。

不自由な心を解き放つ知恵として、このサイトでは「尿漏れ対策」、「皮膚のトラブルケア」、「日常のストーマケア」などを写真を使い具体的に紹介、説明しています。

また社会福祉制度についても、申請に必要な書類から、医療費控除の解説まで紹介しています。

もし、ウロストミーの人で、以前より日常生活の幅が狭くなってしまったと思ひ悩んでいるようでしたら、ぜひ、こちらのサイトを訪れ、よしひろさんの声に耳を傾けてください。ひとりで悩まないことも大切です。



よしひろのストーマケア  
http://uni-site.net/yoshi/stoma-care01/  
ウロストミーの日常のケアからメンタルケアまで  
自身の情報が掲載されています。